

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 109 10月号

2014年10月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469
新宮図書館 TEL(0791)75-3332
揖保川図書館 TEL(0791)72-7666
御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

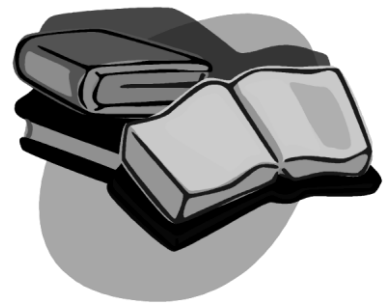


携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.101

「我が家の本棚」 新宮町 岸本 悟美

私は常々、新宮図書館は、我が家の本棚だと思っています。図書館でいろいろな節約と整理整頓の本をお借りしながら、実現出来ない私ですが、今まで、いろんなジャンルの本を買わずに、お借りすることによって、ものすご〜く節約ができたと思います。また、それだけの本を購入していたら、しまう場所にも困っていたと思います。図書館なら自分で整理整頓しなくてもどこに何の本があるか、すぐにわかるし、わからなくても聞けば教えてもらえます。また読みたい本が我が家の（新宮図書館）本棚になれば、お隣（龍野・揖保川・御津）で借りてもらえるし、お隣にもなければ、リクエストして購入してもらえることもあります。そして、読みたい本を予約しておけば、電話やメールで連絡してもらえます。



たつの市とは言え、隣町ギリギリの境界線に住んでいる我が家では、中心部で用事があると、行ったり来たりするだけで時間がかかってしまうので、ちょっと空いた待ち時間には、夏は涼しく、冬は暖かい図書館のロビーでソファに深々と座り、新刊雑誌を読みます。それは至福のひと時です。ガソリン代の節約にもなります。(笑)

そうそう、子どもが小さいころには、おはなし会にも参加させていただきました。今、子育て真っ最中のお母さん！ものを読む力は国語だけでなく、全ての教科に必要なので、今のうちにせつせと本に慣れ親しませておいた方がいいですよ。

年をとったら、家の近くまで出前？してくれる、移動図書館車「かわちどり号」の配達を楽しみに待つ生活もいいなあと思っています。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『盆栽の誕生』 依田 徹 著 大修館書店



世界でも、「BONSAI」として名が知られている盆栽であるが、それを趣味としている人でなければなかなかその魅力がわかりにくい世界かもしれない。盆栽はただの鉢植えではない。鉢に植

え育てながらも、その樹木の姿かたちを手を加え、年数をかけて鉢の中にひとつの景色を作り出してゆく。枝を切ったり、曲げたりして手を加え自然を作り上げる。これが、樹木を苦しめているのだと言われたりもするが、わずかな土、最低限の水で育てた盆栽が、花を咲かせ、紅葉し、季節の訪れを感じることが出来るのが魅力である。その盆栽の歴史と文化的要素を美術史家である著者が辿ってゆく。「鉢植え」は古くは平安時代に行われており、石に樹木を根付かせる「盆山」は、鎌倉時代に発祥した。その

園芸文化が江戸時代になり「盆栽」として繋がってゆくのだが、江戸時代と現代の盆栽では、作り方から美意識まで大きく異なっている。

江戸時代にさかのぼる古い盆栽が現存しているが、それらは現在の美意識で改作されているという。一般に盆栽の美は「わび・さび」という言葉で表現される。しかし、著者は盆栽という文化の柱になっているのは「自然」の一語であり、人が手を入れることで、逆に「自然」を目指す文化であると言う。盆栽は、明治期以降、天皇家や政界、財界人にも好まれ、その愛好家たちのエピソードが語られている。また、徳川家が愛好したとされる盆栽と現代好ましいとされる盆栽の違いなど、時代ごとの図版や写真も数多く紹介されており、盆栽の初心者にもわかりやすくその魅力が伝えられている。

(龍野図書館 河部)

トピックス 10月27日～11月9日は「読書週間」です

今年も「読書週間」の時期がやってきました。図書館ではみなさんに読書を楽しんでもらうお手伝いをしています。ぜひお近くの図書館にご来館ください。 イベントもあります！

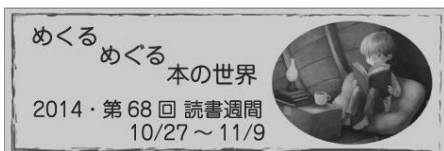
「読書週間」って？

1947(昭和22)年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日(文化の日をはさんで2週間)になったのは、第2回からです。

それから60年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本人は世界のなかでも特に「本を読む国民」となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらうきっかけとなることを願っています。



世界最大なゆた望遠鏡で星を観よう

夜空にきらめく星々を世界最大の公開望遠鏡で観望してみませんか？

日時：11月2日(日)
午後7時30分～午後9時

場所：県立西はりま天文台公園

定員：60名(要申込)

参加費：50円(レクリエーション保険料)

※詳細は新宮図書館にご確認ください。



読書講演会「一冊の本ができるまで」

一冊の本ができるまでのエピソードを元編集者に紹介していただきます。

講師：池田 雅延氏(元新潮社編集者)

日時：11月9日(日)
午後1時30分～午後3時

場所：龍野図書館研修室(2階)

対象：一般 定員：50名(要申込)



おすすめする子どもの本・101

『からすのパンやさん』 かこ さとし 作 偕成社

いずみがもりでパン屋を営むからすの夫婦に、4羽の赤ちゃんが生まれました。身体の色がそれぞれ白・黄・赤・茶だったので、オモチちゃん・レモンちゃん・リンゴちゃん・チョコちゃんと名付けられました。

夫婦は一生懸命働きましたが、赤ちゃんが泣きだすと、とんで行って世話をするので、パンが焦げたり半焼けになる事もあり、お客がだんだん減っていきました。そして、売れないパンは子ども達のおやつになりました。

ところが、そのパンを友達に分けてあげると、おいしいと評判になりました。そして、その中の1羽が、「もっといろんなパンがあるといいな」と言ったので、飛行機パンや恐竜パンや帽子パンなど、変わった形の楽しいパンをたくさん焼きました。

面白いパンが焼きあがった事を知った子ども達が、森中からお店につめかけました。その騒ぎを聞きつけて、消防隊や警察官ま

でもがやって来ました。みんなはめずらしいパンを大喜びして買って行き、からすのパン屋さんは、町で評判のお店になりました。

この絵本からは、こんがり焼けた香ばしいパンの匂いと、家族の温かさが伝わってきます。また、個性的なからす達や、様々な種類のパンをひとつひとつ見るのが楽しい絵本です。

大人になったオモチちゃん達がそれぞれお店を作る本もあります。読んであげるなら4歳くらいから。

(揖保川図書館 二井和)

『白いりゅう 黒いりゅう』 賈芝・孫劍冰 作 君島 久子 訳 岩波書店

大工の棟梁ヤン名人が、息子のチーチンと故郷に戻る途中、「竜が淵」のそばを通りました。「竜が淵」には乱暴な黒いりゅうが棲んでいて、淵から飛び出しては、大嵐や大洪水を引き起こし、周りの村人を苦しめていました。また、この竜は鉄や銅で出来たものが大嫌いで、鉄や銅の器で水を汲む人がいれば、捕まえて食べてしまうのでした。淵で水を飲もうとしたチーチンも、銅の鍋を水につけたとたん、淵から黒い雲が噴き上がり、りゅうの手があらわれ、鍋ごと水の中へ引きずり込まれてしまいました。

ひとり息子を失ったヤン名人は、チーチンのためにも村人のためにも、黒いりゅうと戦うことを決意します。ヤン名人は村人と協力し、大木から白いりゅうを彫り上げ、そのりゅうに魂をこめて戦わせますが、あと少しのところまで負けてしまいます。しかし、その戦いを見た人々の心には、更に元

気がみなぎってきました。今度は友人の鍛冶屋も手伝い、鉄の鱗、牙、爪をつけたりゅうを彫ることにします。それから1年後、白銀のように輝く1匹の大きなりゅうと、8匹の小さなりゅうが完成しました。いよいよ戦いのときがやってきたのです…

ヤン名人のあだ討ちとそれに協力する村人たち、焦燥する黒いりゅうの妨害など、物語の展開に引き込まれます。迫力ある描写でりゅうたちの戦いを描いた終盤も印象的です。表題作の他、中国の昔話5編が収められています。小学1年生から。

(御津図書館 西田つ)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	10月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	9日 『銀色ラッコのなみだ』岡野 薫子 著
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	10日 「ブレノワール」森 絵都 著 『チーズと塩と豆と』より
	絵本やわらべうたで遊ぼう(わらべうた講座) 講師:小早川 美鈴 氏 【日時】11日(土)・18日(土)・11月1日(土) 11時～11時40分 【対象】0～3歳児とその保護者(要申込) 【場所】龍野図書館研修室(2階) 【定員】15組		
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第1・4月曜日、第3日曜日(11時～11時20分)	6日・19日・27日 『くだもの』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ ----- 土曜日(10時15分～10時45分)	4日・11日・18日・25日 「こすずめのぼうけん」他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	11日・18日 『ジルベルトとかぜ』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	11日・18日 「かにむかし」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	17日 『老いの才覚』曾野 綾子 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	12日・19日 『おにぎり』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	14日 『富岡日記』和田 英 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	11日 古文書の解説